

# 3

## 住宅設計で配慮したいこと …さりげないデザイン

住みやすく、こち良い住まいづくりを具体的に進めるにあたって配慮する必要がある事項があります。

この章では、部屋毎、共通事項、設備、屋外などについて住みやすくするための工夫を考えてみます。

1. 部屋毎に配慮したいこと
2. 共通で配慮したいこと
3. 設備で配慮したいこと
4. 屋外空間で配慮したいこと
5. 住宅団地・集合住宅の場合
6. 住宅改善の事例
7. 基本的な寸法・広さ

3章は、住宅設計で配慮したい項目について以下のような構成で整理しています。

この項目の基本的な考え方をまとめています。

主な配慮項目毎に設計の考え方や注意点など、文章と図でまとめています。

## 1-1 玄関

玄関は住まいへの入口であることから、広さや明るさ、出入口の幅などとあわせて外と内との段差への配慮が必要です。  
一般的に玄関の段差は、気密性の確保や雨止まい、また、玄関で靴を脱ぐ習慣から、完全になくすることは困難です。  
靴の履き替えや上り下りの動作だけでなく、妊婦の方やベビーカー、車いすの利用も考慮しながら、玄関扉の幅や上がり框の高さ、手すりの設置などについて検討する必要があります。

- 1.幅員 ベビーカーや車いすが通る扉の有効幅を確保しましょう。
- 2.建具 開閉動作は引き戸の方が楽です。開き戸の場合は、把手の形状などに配慮しましょう。
- 3.鍵 簡単に施錠でき、防犯性の高い鍵にしましょう。
- 4.段差 出入口の数層や上がり框の段差に配慮しましょう。
- 5.手すり 靴の履き替えなどのために、手すりを設置しましょう。

仕上げ (P54参照)  
照明スイッチコンセント (P56参照)

### 1 玄関出入口の幅

**配慮したいこと**  
玄関出入口は、ベビーカーや車いす利用また杖を使用した通行にも配慮した幅を確保することが望まれます。玄関出入口の幅を後から広げることが難しいため、新築時から十分な幅を確保することが重要です。

**参考図など**  
  
●建具の有効幅

UNIVERSAL DESIGN 住宅設計で配慮したいこと

### 2 玄関出入口の建具

**配慮したいこと**  
玄関は、引き戸の方が開閉動作は楽に行えます。引き戸にする場合、レールは床埋込型や平型とし、段がないようにします。  
開き戸とする場合は、ドアクローザー(自動閉鎖装置)の調節や把手の形状に配慮します。把手はレバーハンドルやプッシュプルレバーハンドルなど操作しやすいものを検討しましょう。また、ドアの取り付け部分に指を挟み込まない構造を検討しましょう。

**参考図など**  
  
●ドアクローザー  
●指挟み防止構造の扉

**【プッシュプルレバーハンドル】**  
扉の開く方向にハンドルを押す・引くの操作だけで開閉できるレバーハンドルで、通常のドアのような「回す」動作が不要です。

### 3 玄関出入口の鍵

**配慮したいこと**  
鍵は、施錠が簡単にでき、かつ防犯性の高いものを選びましょう。最近では、「ディンプルキー」が、高精度な構造で、複製はほとんど不可能とされています。表裏どちらでも挿入でき、操作間違いが少なく、しかも、鍵の挿入口がすいすい形になっており、解錠操作もスムーズです。その他様々な方式のものがありますが、家族で相談してどれも使いやすいものを選びましょう。  
さらに、防犯性を高めるために、一つのドアに2カ所の鍵穴を設置するタイプ(ダブルロック構造)のものがあります。

**【ディンプルキー】**  
ディンプルキーとは小さくぼぼが複数あるカギのことで、ピッキング犯罪、及びドライバーなどを使ってもこじ開けに大変強い仕組みになっています。

**参考図など**  
  
●ディンプルキーのイメージ  
●ダブルロック構造のイメージ

UNIVERSAL DESIGN 住宅設計で配慮したいこと

全体のイメージと、主な配慮項目を示しています。ただし、共通事項はまとめて編集しています。

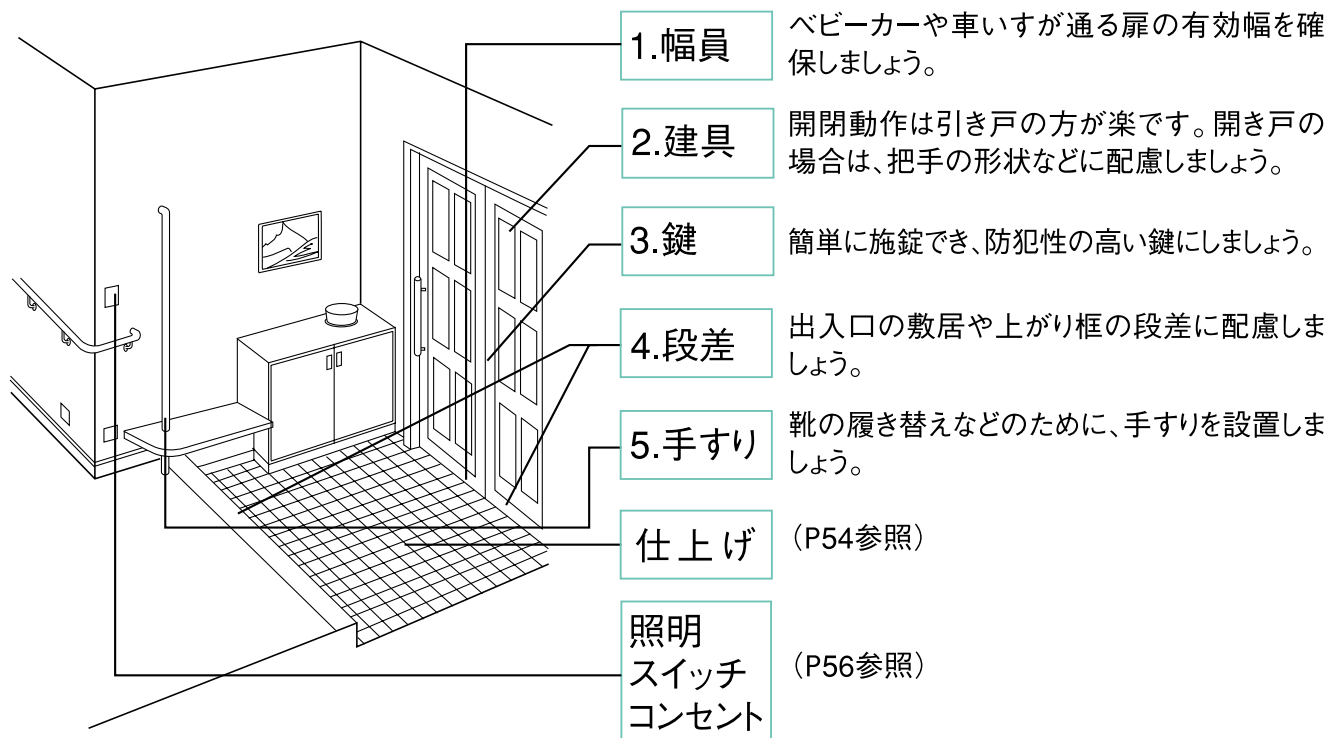
参考図中の数値は、主に「高齢者が居住する住宅の設計に係る指針」及び「住宅性能表示制度 等級5」に定められた数値を使用しています。  
詳しい資料を希望される方は、熊本県住宅供給公社(P98参照)にお問い合わせいただくか、インターネットホームページ(P97参照)をご覧ください。

# 1-1 玄関

玄関は住まいへの入口であることから、広さや明るさ、出入口の幅などとあわせて外と内との段差への配慮が必要です。

一般的に玄関の段差は、気密性の確保や雨じまい、また、玄関で靴を脱ぐ習慣から、完全になくすことは困難です。

靴の履き替えや上り下りの動作だけでなく、妊婦の方やベビーカー、車いすの利用も考慮しながら、玄関扉の幅や上がり框の高さ、手すりの設置などについて検討することが必要です。



## 1 玄関出入口の幅

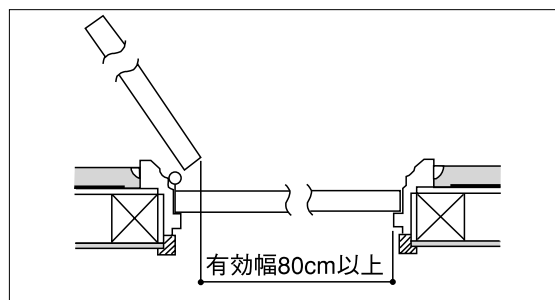
### 配慮したいこと



玄関出入口は、ベビーカーや車いす利用また杖を使用した通行にも配慮した幅を確保することが望まれます。

玄関出入口の幅を後から広げることは難しいため、新築時から十分な幅を確保することが重要です。

### 参考図など



●建具の有効幅

## 2 玄関出入口の建具

### 配慮したいこと



玄関は、引き戸の方が開閉動作は楽に行えます。引き戸にする場合、レールは床埋込型や平型とし、段がないようにします。

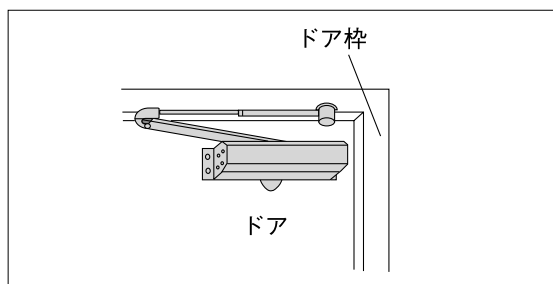
開き戸とする場合は、ドアクローザー（自動閉鎖装置）の調節や把手の形状に配慮します。把手はレバーハンドルやプッシュプルレバーハンドルなど操作しやすいものを検討しましょう。また、ドアの取り付け部分に指を挟み込まない構造の扉を検討しましょう。



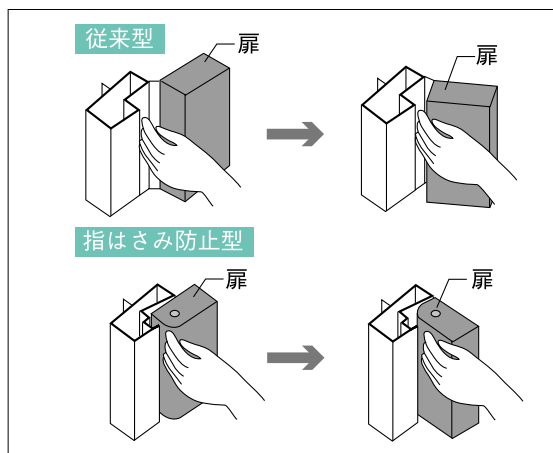
### 【プッシュプルレバーハンドル】

扉の開く方向にハンドルを押し・引くの操作だけで開閉できるレバーハンドルで、通常のドアのような「回す」動作が不要です。

### 参考図など



●ドアクローザー



●指挟み防止構造の扉

## 3 玄関出入口の鍵

### 配慮したいこと



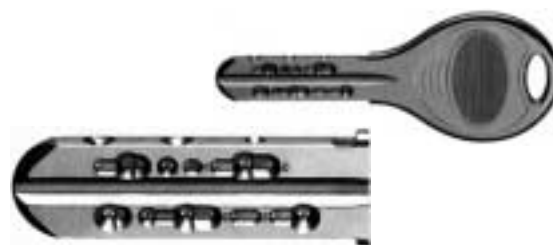
鍵は、施錠が簡単にでき、かつ防犯性の高いものを選びましょう。最近では、「ディンプルキー」が、高精度な構造で、複製はほとんど不可能とされています。表裏どちらでも挿入でき、操作間違いが少なく、しかも、鍵の挿入口がすり鉢形状になっており、解錠操作もスムーズです。その他様々な方式のものがありますが、家族で相談してどれも使いやすいものを選びましょう。

さらに、防犯性を高めるために、一つのドアに2カ所の鍵穴を設置するタイプ（ダブルロック構造）のものがより安全です。

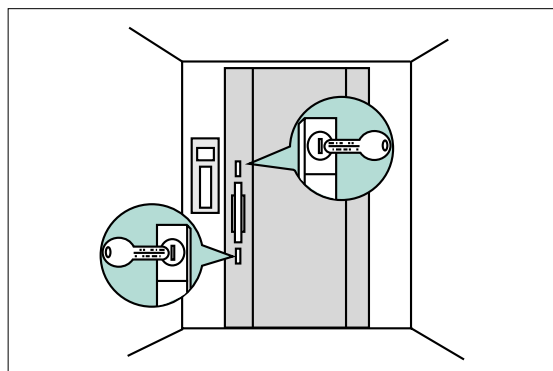
### 【ディンプルキー】

ディンプルキーとは小さなくぼみが複数あるカギのことで、ピッキング犯罪、及びドライバーなどを使ってのこじ開けに大変強い仕組みになっています。

### 参考図など



●ディンプルキーのイメージ



●ダブルロック構造のイメージ

## 4 玄関出入口や上がり框の段差

### 配慮したいこと



#### ■ 玄関出入口の段差

ベビーカーや車いすの使用を考えると、段差なしが望まれますが、雨水の浸入などを防ぐため、玄関出入口部分には段差を設けることが一般的です。

その場合、段差は車いすでも乗り越えていくことができる程度に抑えることが大切です。

#### ■ 上がり框部分の段差

玄関で靴を履き替える習慣があることから上がり框を設けることが一般的となっています。

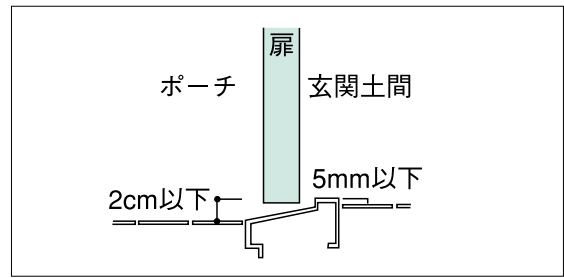
段差を設ける場合の高さについては、以下のような考え方があります。

- ・・・介助者が車いすを上げて、住戸内に入ることができる程度の高さ
- ・・・杖使用者が手すり等を使って自力で上がるができる高さ

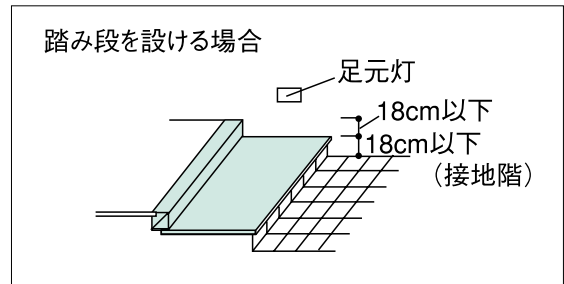
#### ■ ベンチ

靴の履き替えを楽にするために、ベンチなどを置くことも有効です。

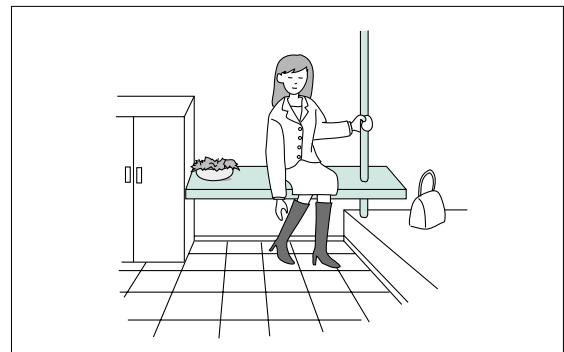
### 参考図など



● 出入口の段差



● 上がり框



● ベンチ

## 5 玄関の手すり

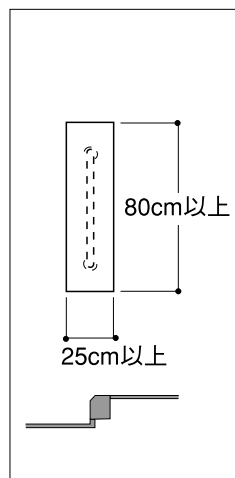
### 配慮したいこと



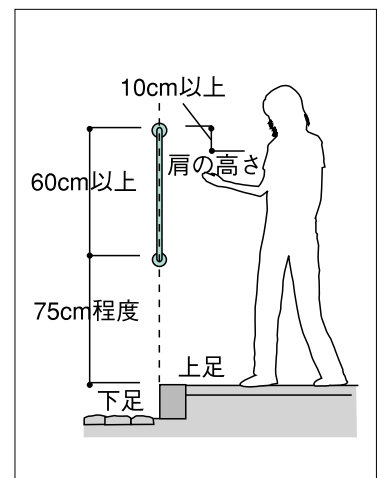
玄関の上がり框の部分は、靴の履き替えや上がり框の上り下りによって重心の上下移動や片足立ちなど不安定な姿勢になる場所です。

体を支えることができるよう手すりを設置するか、将来手すりが設置できるよう補強下地を入れておきましょう。

### 参考図など



● 補強下地位置の目安



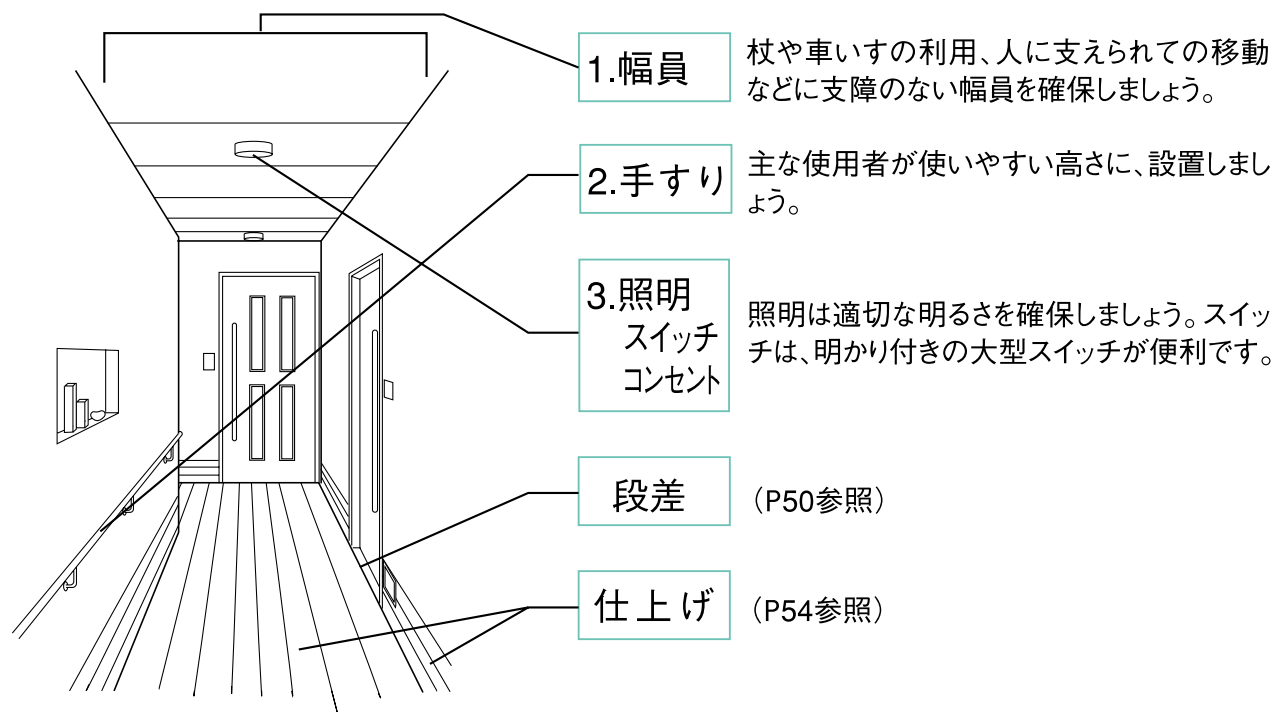
● 設置高さの目安

# 1 -2 廊下

廊下は、部屋と部屋をつなぐ重要なところですから、だれもが安全でスムーズに移動できることが大切です。

しかし、旧来の日本家屋の構造では、敷居など廊下と部屋の間には多くの段差がありました。敷居はまたぐものという習慣であっても、子どもやお年寄りがつまづくこともあったはずです。

家の中だからこそ安全に行き来できるよう、段差などに配慮し、あわせて手すりの設置や廊下幅についても気を配りましょう。



## 1 廊下や各室の出入口の幅

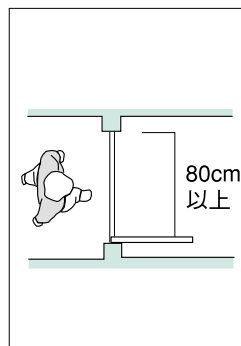
### 配慮したいこと



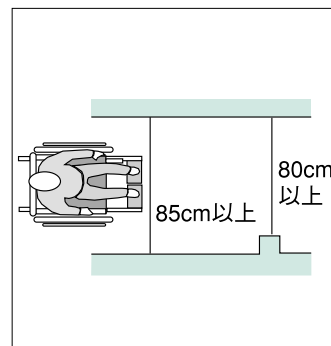
廊下は部屋と部屋をつなぎ、また玄関につながるところであるため、車いす利用や杖を使用した通行にも支障がなく、人の介助が受けられる幅を確保することが望まれます。

特に、廊下や部屋の出入口の幅は後から広げることが難しいので、新築時から必要な幅を確保しておくことが重要です。

### 参考図など



●建具の有効幅



●廊下の幅

## 2 廊下の手すり

### 配慮したいこと



手すりを設置することは、歩行の際に体を支えたり、あるいは視力が低下してきたときに方向がわかりやすいなど、移動を助ける上で非常に有効です。

また、あらかじめ手すりの設置ができるように補強下地を用意しておけば、手すりが必要となった場合に、より少ない費用で取り付けることができます。

※下地の設置位置については、後で分かるような図面を用意しておきましょう。

#### ■手すりの高さ

取り付け高さの目安は、大腿骨の付け根のあたりの高さがよいでしょう。

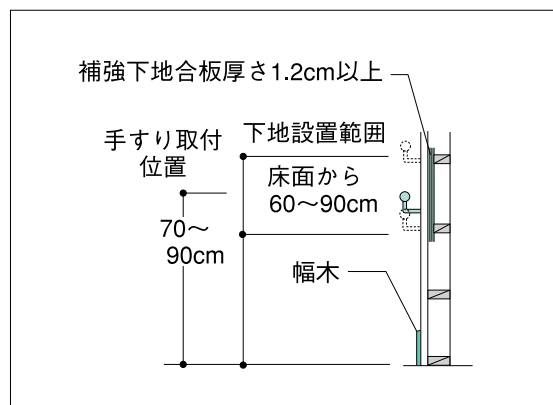
#### ■手すりの形状

手すりの形状は円形に近いものが握りやすいでしょう。ただし、廊下などで手をすべらせて使う場合は、平坦型の形状が望ましい場合もあります。

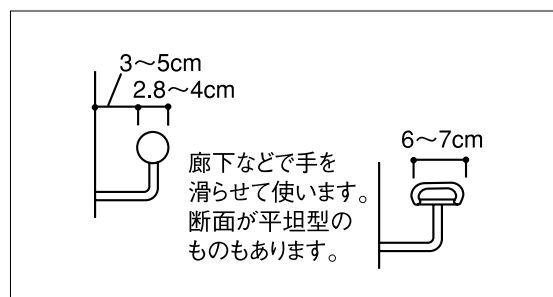
#### ■手すりの材質

手すりは、日常的に使用するものですので、もちろん手触りや耐久性などの良いものを選ぶことが大切です。

### 参考図など



●手すりの高さの目安



●手すりの形状

## 3 照明やスイッチ

### 配慮したいこと

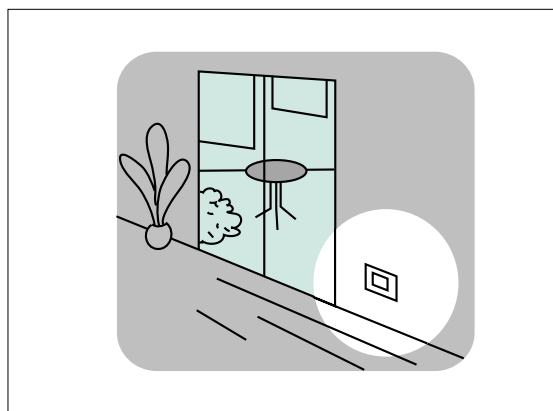


自分の影で足元が暗くならないよう照明器具を適切に配置し、夜間でも安全に移動できるようにしましょう。

足元を照らすには、廊下側壁の下側に足元灯を設置するのが有効です。明るさ・暗さをセンサーが感知して自動的に点灯・消灯するものや人が近づくと自動点灯するものもあります。

また、廊下は採光や通風について見落としがちになるところです。吹き抜けを設けたり、窓の位置に配慮することも大切です。

### 参考図など



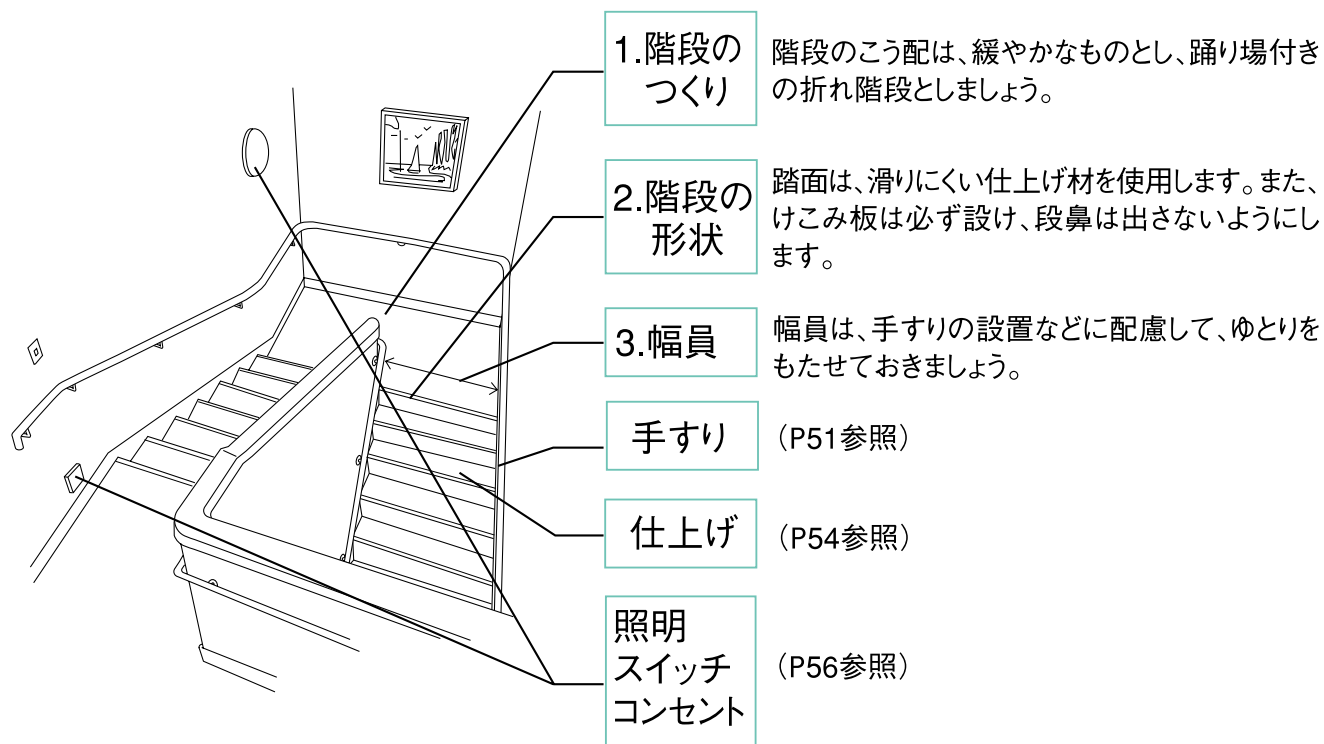
●足元灯のイメージ

# 1-3 階段

階段は上下階を結ぶ大切な移動経路であり、住まいの中で体重の上下移動の多い場所です。

平行移動に比べて上下移動は、転倒・転落事故が起こりやすいため、子どもやお年寄りだけでなく、荷物を持っての移動も考慮して、安全に上り下りできることが最も重要になります。

できる限り緩やかなこう配の階段にするとともに、すべり止めや手すりの設置などで、安全面の配慮を十分にしておきましょう。



**1. 階段のつくり** 階段のこう配は、緩やかなものとし、踊り場付きの折れ階段としましょう。

**2. 階段の形状** 踏面は、滑りにくい仕上げ材を使用します。また、けこみ板は必ず設け、段鼻は出さないようにします。

**3. 幅員** 幅員は、手すりの設置などに配慮して、ゆとりをもたせておきましょう。

**手すり** (P51参照)

**仕上げ** (P54参照)

**照明  
スイッチ  
コンセント** (P56参照)

## 1 階段のつくり

### 配慮したいこと

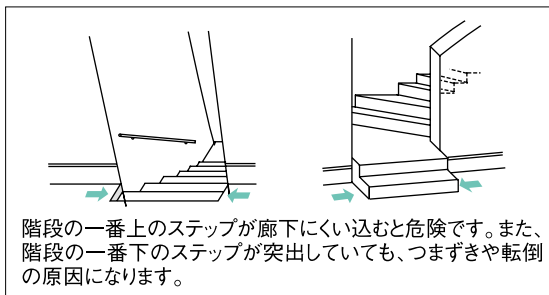


階段上り口や下り口は、便所や寝室など、夜間に入ったり移動が考えられる場所との位置関係に配慮が必要です。

転落事故防止のために、配置や上り口、下り口の構造には特に気をつけましょう。

階段のつくりは、万一転落した場合の距離を短くするために、踊り場付きの折れ階段としましょう。

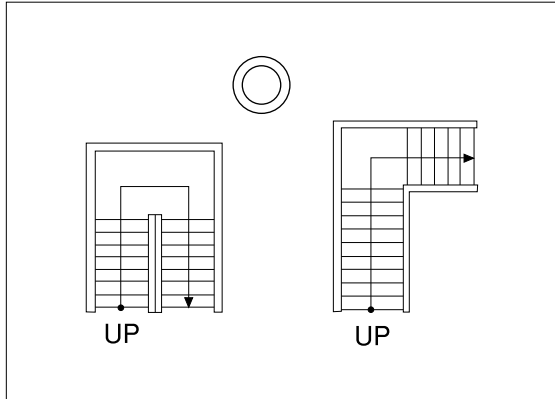
### 参考図など



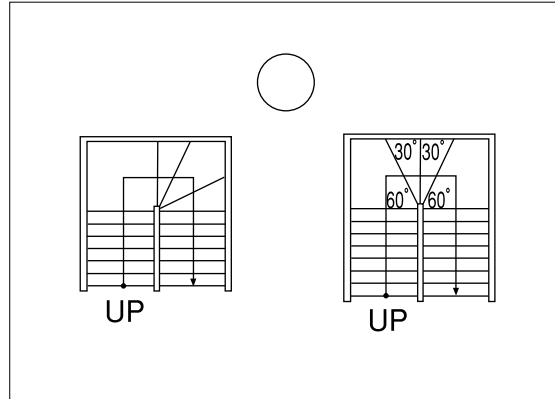
階段の一番上のステップが廊下にくい込むと危険です。また、階段の一番下のステップが突出していても、つまずきや転倒の原因になります。

● 危ない階段の例





●踊り場付き折れ階段の例  
(転落時の距離を短くできます)



●まわり階段の例  
(まわり部分の割付け方によって上り下りがスムーズになります)

## 2 階段のけあげ・踏面・けこみ

### 配慮したいこと



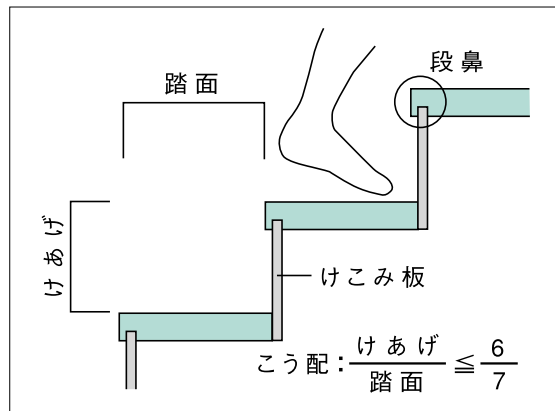
階段のこう配とそれを決める踏面・けあげの寸法は、安全性の点で極めて重要です。階段のこう配は、できる限り緩やかにし、楽に上り下りできるようにしましょう。

つまずきなどが起こらないように、段鼻は突き出さないようにします。

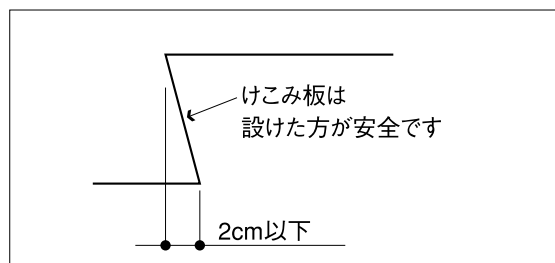
また、つま先が段鼻部分に引っかからないように、けこみ板を設けた方がより安全です。

さらに、廊下の床面と階段の踏面は色や材質を変えるなど、簡単に見分けられるようにしましょう。

### 参考図など



●踏面・けあげ



●けこみ

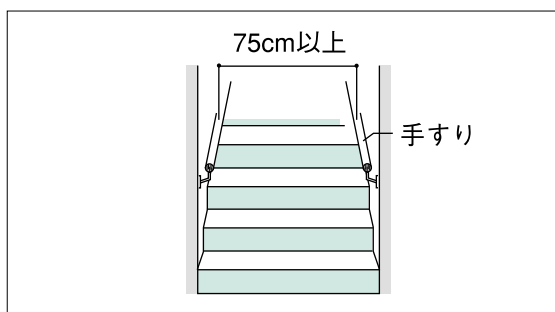
## 3 階段の幅

### 配慮したいこと



階段には手すりの設置が必要です。そのため、階段や踊り場の幅は、手すりの設置を考慮した、ゆとりある幅とすることが大切です。

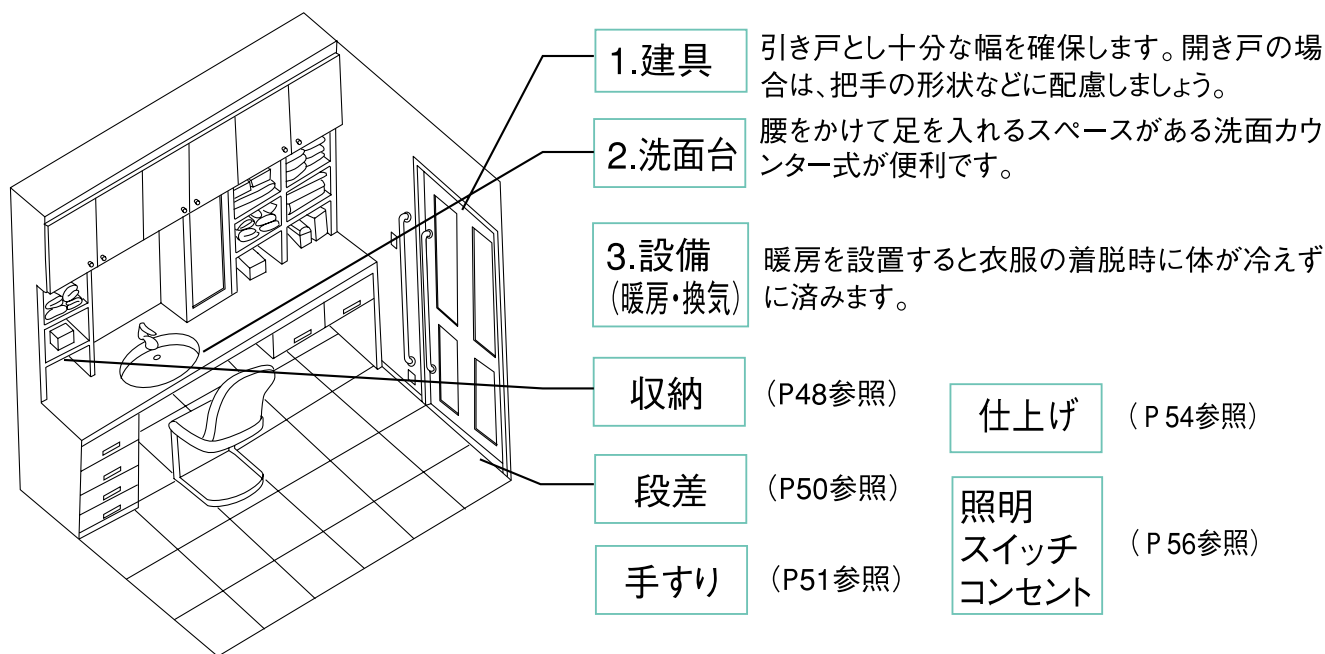
### 参考図など



●階段の幅の目安

# 1-4 洗面所・脱衣室


洗面所・脱衣室は、洗面、脱衣の他に歯磨き、化粧、ひげ剃り、整髪などに欠かせない場所です。一方で、構造的には床下の配管や水処理のために、段差が生じやすい場所です。段差をつくらぬ工夫をすると同時に、滑りにくい床仕上げ材とするなどの配慮が必要です。また、車いすでも動きやすいスペース、使いやすい洗面台の設置や収納の工夫も大切です。



- 1. 建具 引き戸とし十分な幅を確保します。開き戸の場合は、把手の形状などに配慮しましょう。
- 2. 洗面台 腰をかけて足を入れるスペースがある洗面カウンター式が便利です。
- 3. 設備 (暖房・換気) 暖房を設置すると衣服の着脱時に体が冷えずに済みます。
- 収納 (P48参照)
- 段差 (P50参照)
- 手すり (P51参照)
- 仕上げ (P54参照)
- 照明スイッチコンセント (P56参照)

## 1 洗面所・脱衣室出入口の建具

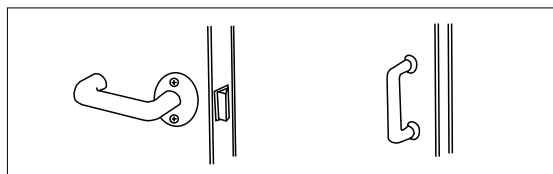
### 配慮したいこと

 だれもが楽に開閉できるよう、出入口の建具はできるだけ引き戸とします。引き戸は戸が開いているときや閉じているときに把手に手をかけやすく安全に操作できるように、引き残しをとります。

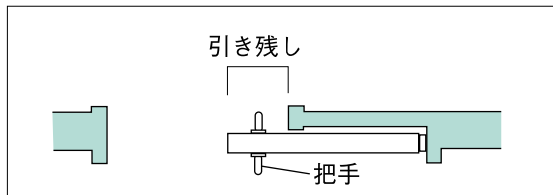
また、レールが床から突出しないよう、床埋込型や平型レールがよいでしょう。

建具の把手は、引き戸の場合は棒状、開き戸の場合はレバーハンドル式など、操作性のよいものが望まれます。

### 参考図など



●握りやすい把手



●引き残し

## 2 洗面台のつくり

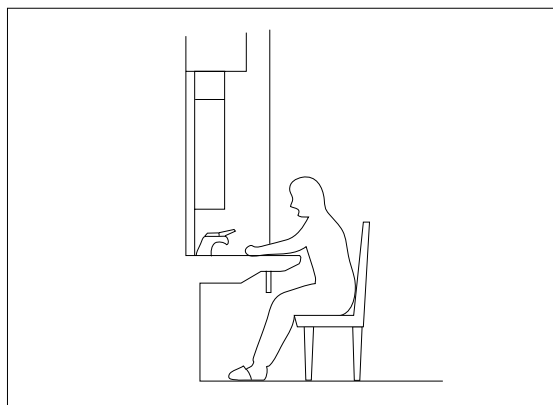
### 配慮したいこと



洗面台は、水がかりを考えた素材とするだけでなく、子どもの身長も考慮し、また大人でもいすに座って楽に使用できるようにカウンター式（洗面器下部に膝が入るスペースをもつ洗面台）とするのがよいでしょう。操作レバーを軽く押すだけで洗面台が昇降する、昇降機能付の洗面台もあります。

また、鏡は立っても座っても見えるように、大きめのものを選びましょう。あわせて、くもり止め仕様の鏡であれば、湯気がある場合でもくもらず見やすさを確保できます。

### 参考図など



●腰かけて使える薄型洗面台のイメージ



●腰かけて使える薄型洗面台

## 3 暖房や換気

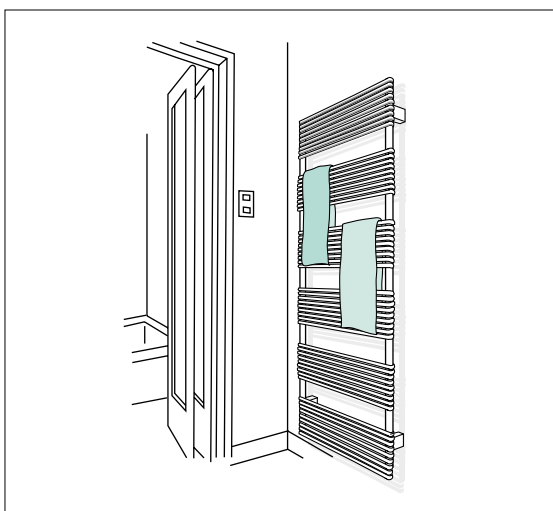
### 配慮したいこと



寒い洗面所・脱衣室で暖まった体がさめることは快適でないばかりか、健康にもよくありません。急激な寒暖の差が病気や事故の原因になることから、暖房の設置を検討してみましょう。

また、湿気がこもらないように、換気扇や換気ガラリを設けましょう。

### 参考図など

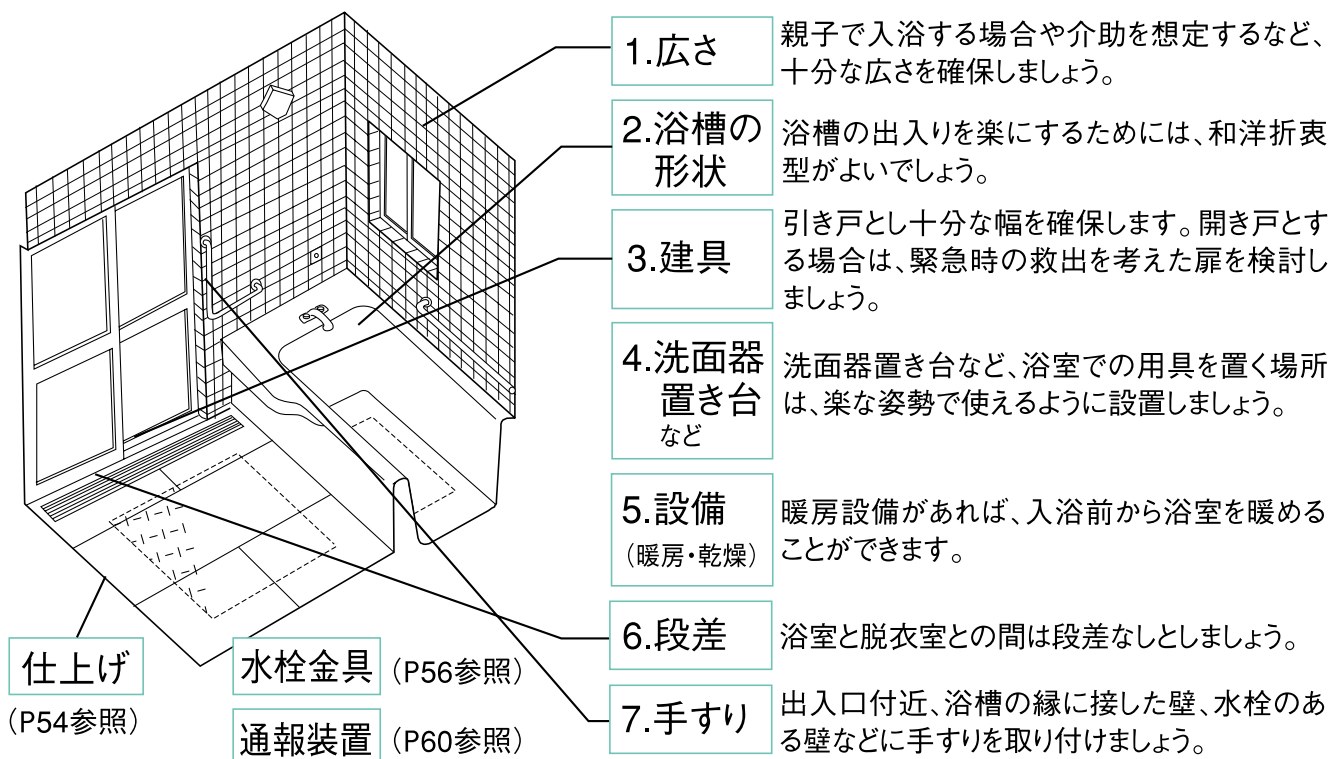


●タオル掛け兼用のパネルヒーター

# 1-5 浴室

浴室は、疲れをとり、身体を清潔にし、健康維持にとって大切な場所です。しかし、濡れた足場での立ち座り、浴槽への移動などによる転倒事故が多いところです。

子どもからお年寄りまで安全で快適に入浴できるよう、十分な広さを確保するとともに、手すりの設置や、またぎやすい高さの浴槽を採用するなどの配慮が必要です。また、滑りにくい床にしたり、操作が容易な設備機器を採用することも必要です。



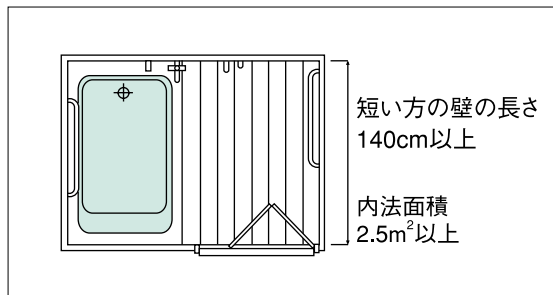
## 1 浴室の広さ

### 配慮したいこと



浴室は、親子で入浴する場合や乳児の沐浴、また、介助付きで入浴する場合などを考慮し、できる限り十分なゆとりある広さを確保します。

### 参考図など



●浴室の広さの目安

## 2 浴槽の形状

### 配慮したいこと

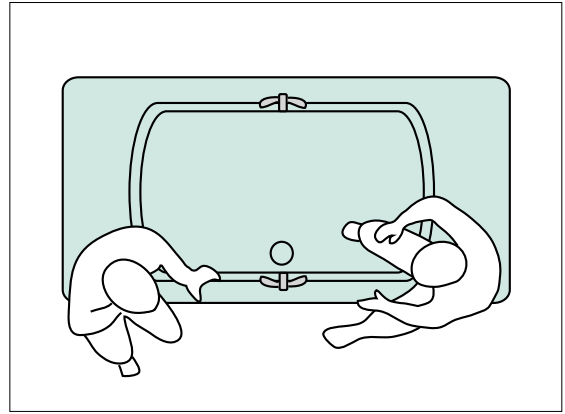


縁の高い浴槽を使用すると、身長が低い子どもや足腰の機能や腕力が低下した人には、出入りの際に身体を支えることが困難となり転倒しやすくなります。

このため、浴槽の縁はまたぎやすい高さとする必要があります。また、浴槽が深いと出入りの際の動作が困難となるので、和洋折衷式の形状の浴槽がよいでしょう。あわせて、浴槽の底面は滑りにくいものとしましょう。

また、浴槽の縁に腰掛けて出入りできるような腰掛けスペースのある浴槽がよいでしょう。

### 参考図など



●腰掛けスペースのある浴槽の例



●浴槽の形状

## 3 浴室出入口の建具

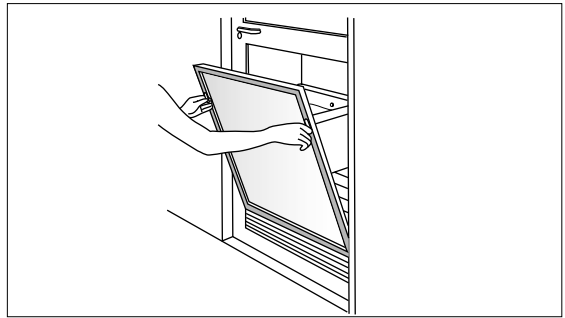
### 配慮したいこと



できるだけ引き戸または折れ戸とします。やむを得ず開き戸を使用する場合には、浴室で倒れた場合など緊急時に外から救助できるよう、扉全体、または部分の取り外しが可能なものとします。

また、戸の部分には、樹脂製や安全性のあるガラスなど、割れても危険の少ない素材を選びましょう。

### 参考図など



●緊急救出扉のイメージ

## 4 洗面器置き台など

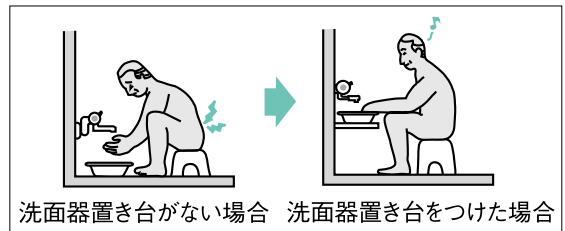
### 配慮したいこと



洗面器置き台は、座面の高いふろいすやシャワーチェアを使用しての洗面器使用動作を楽にします。洗面器置き台の高さはふろいすの座面高さを基準にして考えます。

また、シャンプーや石鹸も手の届きやすいところに納めるように工夫しましょう。

### 参考図など



●洗面器置き台

## 5 暖房や乾燥

### 配慮したいこと



暖房設備があれば、冬などは入浴前から浴室を暖めることができます。浴室に入ることが快適であるだけでなく、脱衣室との急激な温度差による事故を未然に防ぐことにもなります。

暖房と乾燥ができる換気扇もあり、室内で洗濯物を干す場合は便利です。

### 参考図など



●暖房・乾燥ができる換気扇

## 6 浴室と脱衣室の段差

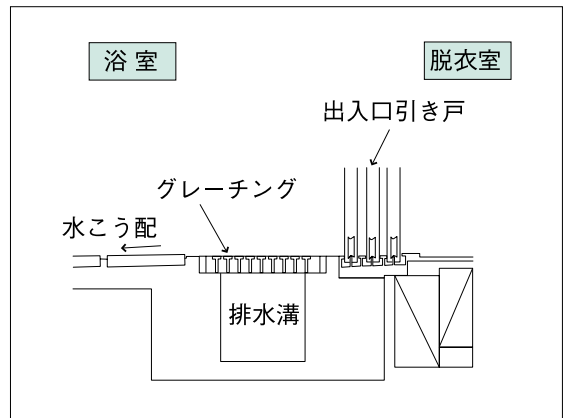
### 配慮したいこと



つまずきによる事故を防いだり、車いすでの入室が楽なように、浴室と脱衣室との床は、できるだけ段差のないものとしす。

段差なしの場合には、浴室の湯が脱衣室に流れ込まないように、グレーチングの設置や水こう配の工夫など排水の方法に気をつけましょう。

### 参考図など



●段差処理・排水処理の例

## 7 浴室の手すり

### 配慮したいこと

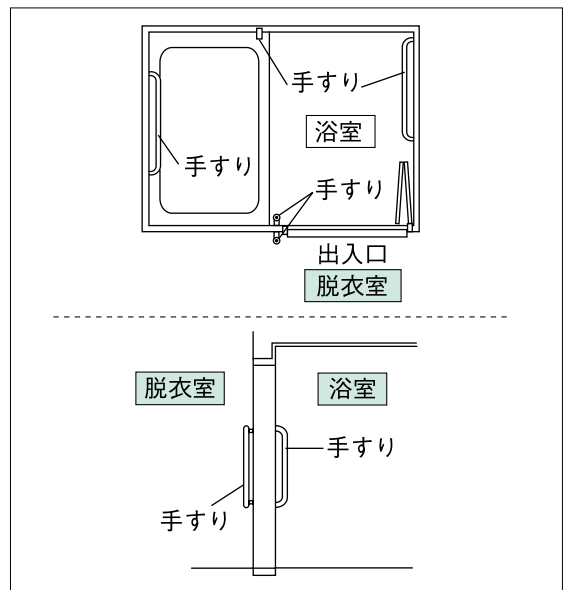


浴室の手すりとしては、浴室への出入り用、浴槽の出入り用、洗い場での立ち上がり用、浴室内の移動用手すりが必要です。

浴槽用の手すりは、立ち座り、姿勢保持のために設置します。

浴室の出入り用の手すりは、安全のために脱衣室側にも設けましょう。

### 参考図など

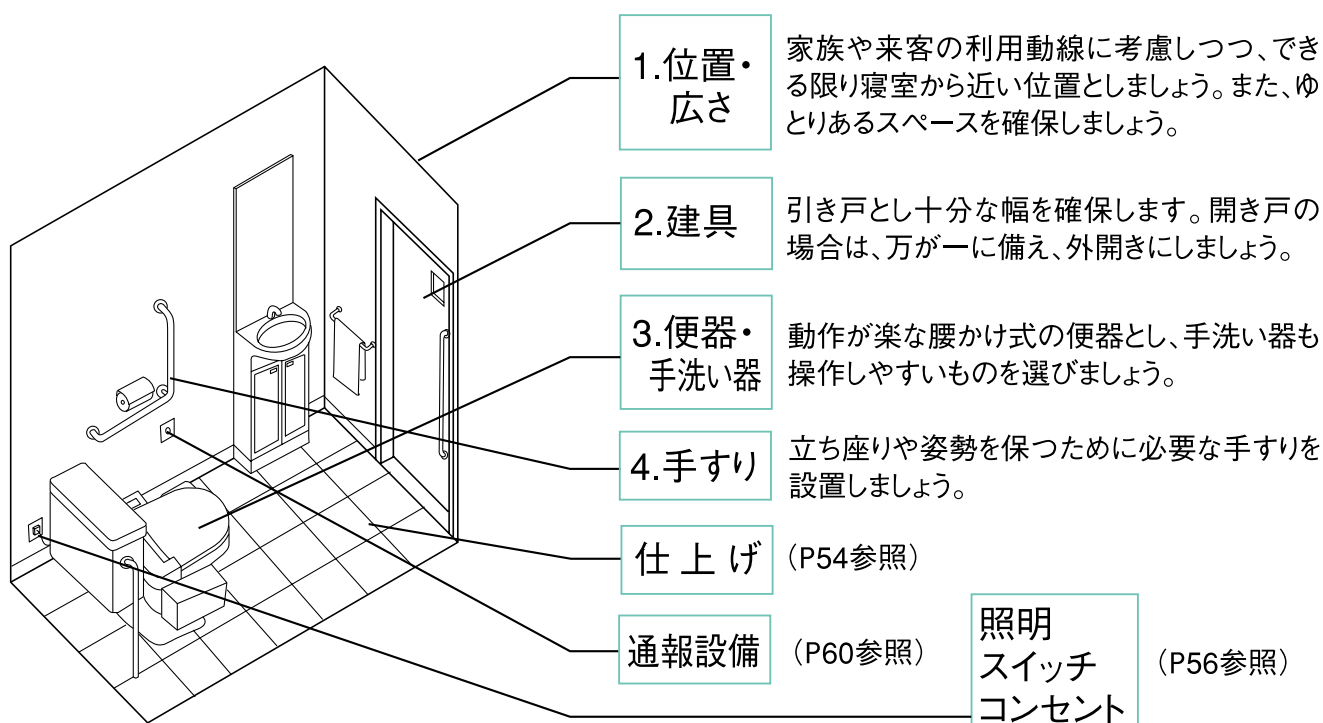


●手すりの設置位置

# 1-6 便 所

便所は、昼夜にかかわらず頻繁に使われる場所のひとつであり、いつまでも自立して使用したいところです。

特に、介助ができるよう広さに余裕をもたせるとともに、寝室からの移動距離を短くして、安全で使いやすい場所とすることが必要です。



1. 位置・  
広さ

家族や来客の利用動線に考慮しつつ、できる限り寝室から近い位置としましょう。また、ゆとりあるスペースを確保しましょう。

2. 建具

引き戸とし十分な幅を確保します。開き戸の場合は、万が一に備え、外開きにしましょう。

3. 便器・  
手洗い器

動作が楽な腰かけ式の便器とし、手洗い器も操作しやすいものを選びましょう。

4. 手すり

立ち座りや姿勢を保つために必要な手すりを設置しましょう。

仕 上 げ

(P54参照)

通報設備

(P60参照)

照明  
スイッチ  
コンセント

(P56参照)

## 1 便所の位置・広さ

### 配慮したいこと

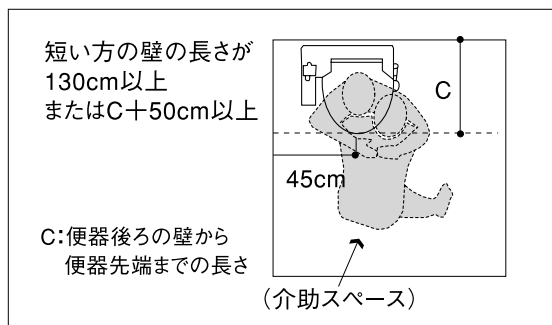


便所は、小さな子どもや一人では利用が難しい人の介助を想定した広さを確保することが望めます。

当初から介助スペースを確保することが難しい場合は、将来、改造することによって確保できるようにしておけばよいでしょう。

位置は、家族や来客の利用も考慮しつつ、寝室から近い位置に配置することが望めます。

### 参考図など



● 便所の広さ



## 2 便所出入口の建具

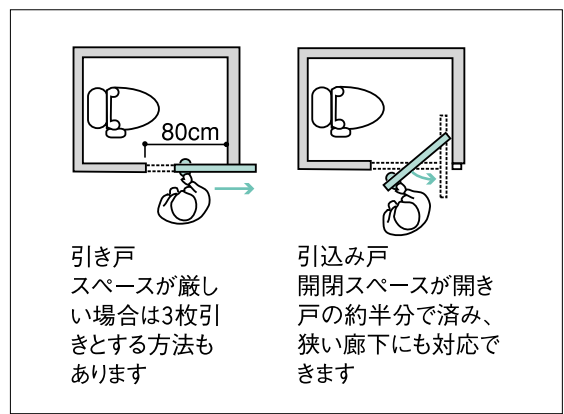
### 配慮したいこと



便所の出入口の有効幅は、小さな子どもや一人では利用が難しい人の介助のことを考えてゆとりのあるものとしましょう。

また万一、便所で倒れた場合や子どもなどの閉じ込めに備え、引き戸や引き込み戸、または外開き戸とし、錠は緊急時に備え、外からも解錠できるものを使用します。

### 参考図など



●開け閉めしやすい建具の例

## 3 便器・手洗い器

### 配慮したいこと



便器は、立ち座りの動作が楽な腰かけ式の便器とし、温水洗浄や暖房機能付きとすることが望まれます。

また、楽な姿勢で流せるリモコン式の便器洗浄や片手で切れる紙巻器など、操作しやすい器具を選びましょう。

手洗い器は、使いやすい位置に設けます。また、水栓金具は、レバー式ハンドルや自動水栓が使いやすく便利です。

### 参考図など



●腰掛け式便器、リモコン洗浄などの例

## 4 便所の手すり

### 配慮したいこと

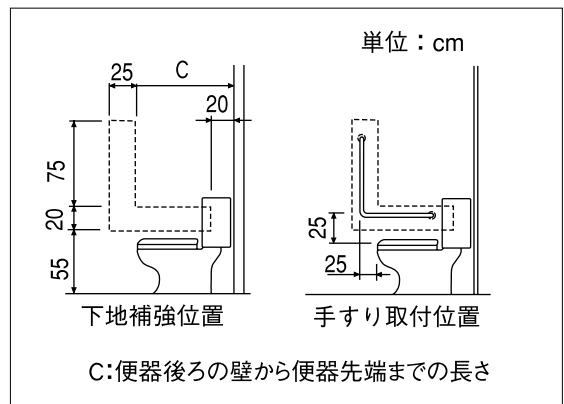


姿勢の安定を保ち、立ち上がりなどの動作を楽にするため手すりを取り付けるか、取り付けることができる構造としておきます。

ただし、使う人によって必要な箇所が異なるので、取付位置は家族みんなが使いやすい場所を選びましょう。

手すりの構造は、しっかり握れる形状と太さのものを選びます。握る動作が難しい場合は、ひじかけの棚をつけることも考えられます。

### 参考図など



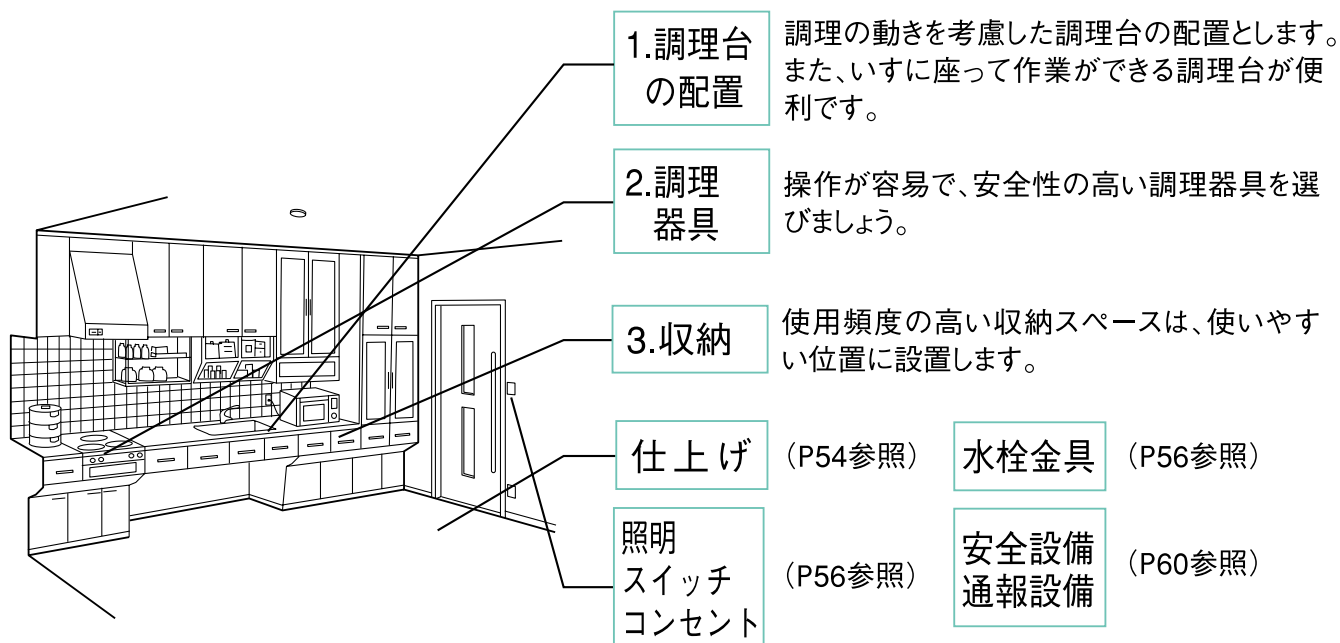
●手すり設置の一般的な範囲



# 1-7 台所

台所は、家事の中心になるスペースです。同時に、火や刃物を使うため、危険な場所でもあります。しかし、料理は子どもからお年寄りまで、みんなでいつまでも楽しみたいものです。子どもが安全に手伝いができ、また、目や指先の機能が衰えたお年寄りでも快適に料理できるよう、安全対策には特に気を配りましょう。

さらに、腰をかがめたり、立ち仕事を中心になるので、楽な姿勢で使えることも重要です。



## 1 調理台の配置

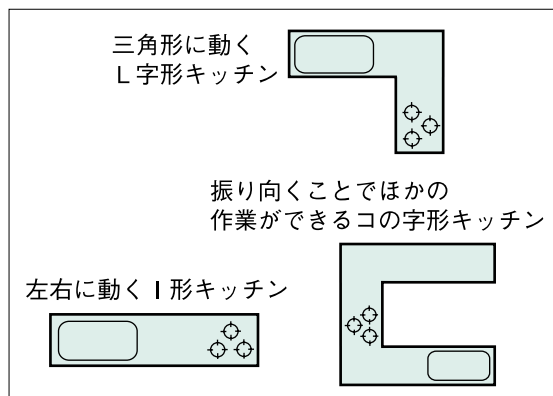
### 配慮したいこと



壁の向きやスペースの関係もありますが、長時間作業する場所だけに、動きやすく疲れないための調理台の配置が必要です。

また、調理中も子どもに目を配るためには、対面式のオープンなつくりにするなど調理台の配置に加え、壁や出入口の位置の検討も必要です。

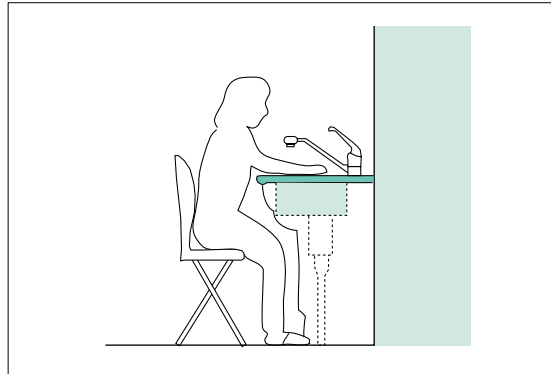
### 参考図など



●調理台の配置と特長

調理台はいすに腰かけても、車いすでも使いやすくするには、下部に足の入るスペースがあるものを選び、周辺には十分なスペースを確保しましょう。

また、身長に合わせた調理台の高さはとても大切です。二世帯住宅などで主に作業する人の身長が違う場合は、すのこなどで対応すると便利です。



●下部にスペースがある調理台の例

## 2 調理器具

### 配慮したいこと



調理器具は点火が容易でわかりやすく、火力調節もわかりやすいものとしします。

ガス調理器具を使用する場合は、立ち消えや消し忘れに対する安全装置付きとします。また、炎の出ない電気・電磁調理器具もあります。

【電磁コンロ】(IH:Induction Heatingの略)

電磁誘導により加熱するコンロのことです。

【電気コンロ】

伝導熱により加熱するコンロのことです。

### 参考図など



●点火装置の例

## 3 収納スペース

### 配慮したいこと

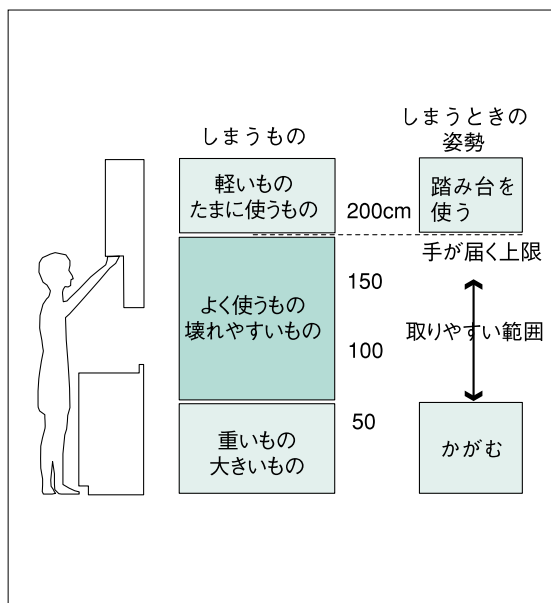


子どもやお年寄りでも手が届く、使いやすい高さに戸棚を設置したり、上下可動式の吊戸棚を設置するなど、台所収納の使い勝手をよくすることが必要です。



●上下可動式の戸棚

### 参考図など

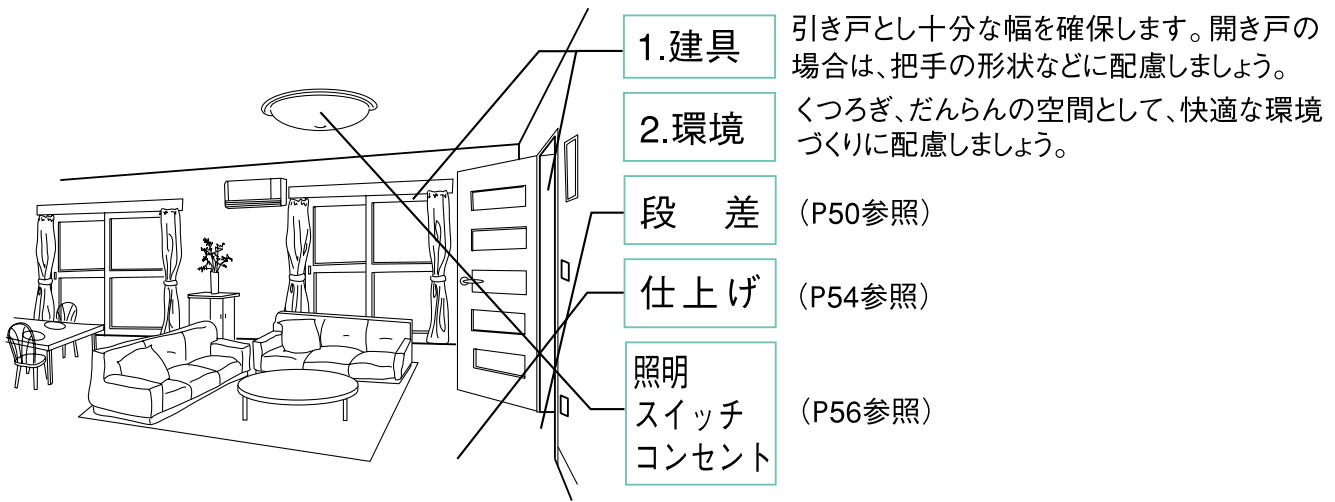


●収納高さの目安

# 1 -8 居間・食事室

居間・食事室はくつろぎ、だんらんする場であり、家の中での中心的な空間です。また一日の多くの時間を過ごす場ともなります。したがって、配置は家族で十分に相談して決めましょう。

あわせて通風や採光、広さや家具の配置、照明、冷暖房などに十分配慮することが必要です。



1. 建具

引き戸とし十分な幅を確保します。開き戸の場合は、把手の形状などに配慮しましょう。

2. 環境

くつろぎ、だんらんの空間として、快適な環境づくりに配慮しましょう。

段 差

(P50参照)

仕 上 げ

(P54参照)

照 明

ス イ ッ チ

コ ン セ ン ト

(P56参照)

## 1 居間・食事室出入口の建具

配慮したいこと



楽に開閉できるよう、できるだけ引き戸とします。引き戸は把手に手をかけやすく安全に操作できるように、引き残しをとります。

庭に面している場合には、掃き出し窓としてデッキなどと連続させるとよいでしょう。

参考図など



●掃き出し窓の例

## 2 快適な環境づくり

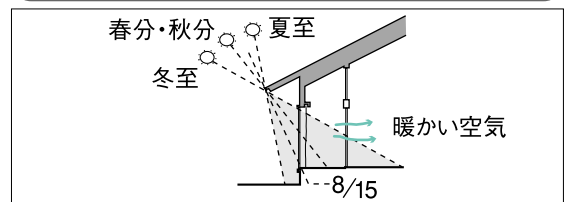
配慮したいこと



家族が快適にくつろげるように、十分な広さを確保するとともに、採光、通風や室温などにも十分に配慮しましょう。

また、庭などの屋外とのつながりを意識することも大切です。

参考図など

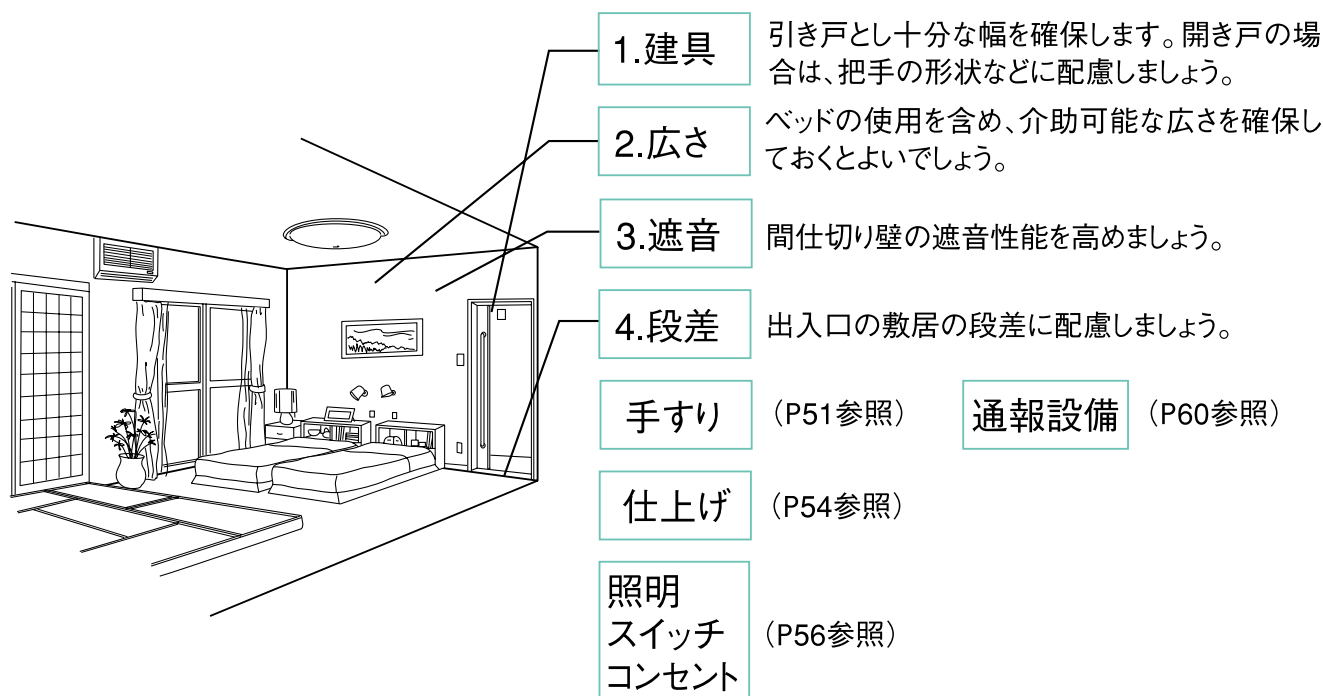


●採光の考え方

# 1-9 寝室

寝室は、夜間の睡眠だけでなく、個人が疲れをいやし、ゆっくりとくつろぐために重要な空間です。プライバシーに配慮しつつ、十分な広さを確保するとともに、静かな環境を整えることが必要です。

また、病気や事故をはじめとする緊急の事態に備えて、枕もとに緊急ブザーなどの通報設備を設置できるような配慮も必要です。



## 1 寝室出入口の建具

### 配慮したいこと

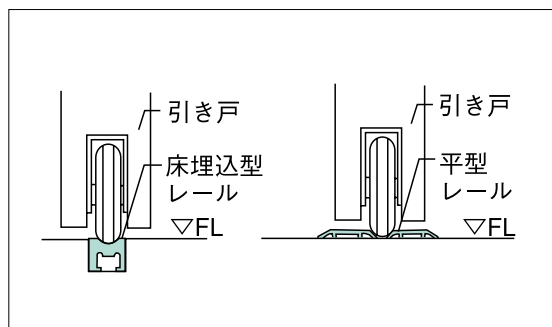


だれもが静かで楽に開閉できるよう、出入口の建具はできるだけ引き戸とし、把手に手をかけやすいように、引き残しをとります。

また、レールが床から突出しないよう、床埋込型や平型レールを使用しましょう。

さらに外部との関係では、掃き出し窓などを用い、直接外部に出られるようにするとよいでしょう。

### 参考図など



●レールの形状